

TSY MANINONA

JOURNAL SUR MADAGASCAR

木川 莉江 KIGAWA RIE

JICA青年海外協力隊として
マダガスカルのアンブイマナンブラで活動中
大塚製薬株式会社より現職参加
(2021-3次隊/コミュニティ開発)

生活改善チームで各地域訪問

生活改善チームで各地域を訪問する活動が始まりました。1週目は問題分析ワーク（幸セワーク）、2週目は改良かまど作り、3週目は泥炭作り、4週目は栄養改善と料理教室。3月は2つの地域で毎週木曜日と土曜日に行いました。

一つめの地域は大苦戦。地域長に住民への声かけをお願いし、ポスターも沢山掲示しましたが、各回で想定していた人数よりも、参加住民を集めることが出来ませんでした。それでも来てくれた少数の住民に情報を伝えることができましたが、目標人数を達成しなかったことに対して、終了後に自然とチームメンバーで原因と対策を話し合う反省会になってしまいました。

対して二つめの地域では、沢山の人が集まり、1週目の問題分析から沢山の意見交換がありました。現在の一番の課題は病気が多いことでした。病気を防ぎ健康でいるために、日頃から栄養の良い食事を摂るべきで、「みんなで定期的に健康や栄養について学ぶべきだ」という話になりました。今までこの地域には住民グループはなかったそうですが、これを機にグループを作り定期的に集まって勉強会をする計画をしているそうです。このグループに出来ることを今後も続けていきます。

初動した3月は、失敗も成功もあり本当に学びが多かったです。残り8地域もチームメンバーと試行錯誤しながら頑張っていきます。

日本祭りの準備

前から企画していた、任地での日本祭りの開催まで1ヶ月を切りました。収入向上を目指す女性グループに、当日販売してもらうための日本食を教えたり、市役所職員と当日のプログラムの詳細を考えたり、住民に日本の歌やダンスを教え練習したり、様々な場所へ広報に行ったり、チラシを任地の至る所に貼ったり、慌ただしくも楽しい日々が続いています。今は少し大変ですが、楽しみつつも出来る限りの準備をし、当日は関係者みんなが楽しく笑顔になれるお祭りにしたいと思います。



2週目に行った改良かまど作り



4家族で構成している女性グループ
販売にむけて作った「きなこクッキー」

66

mandihy sy mihira

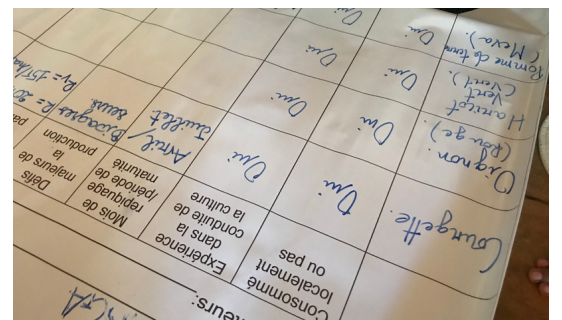
「踊る 歌う」という意味
 本当に踊りと歌が得意なマダガスカル人
 今、日本の踊りと歌を教えています、
 信じられない位はやいスピードでマスターします！



一番人気だった「にんじんケーキ」



3週目に行った泥版作り



2ÈME FORMATION EN LANGUE MALGACHE

2回目のマダガスカル語の語学訓練

2月26日から1週間、2回目となるマダガスカル語訓練に参加しました。2人の先生が、講義・実践に分けて授業をして下さいました。約10ヶ月の活動を経て、以前よりもマダガスカル語ができるようになってきたものの、まだまだ理解のできない言葉や言いたいことが伝わらない場面が沢山ありました。

今回はまだ習っていなかったマダガスカル語の受動態をしっかりと学ぶことができ、活動のなかで伝わりにくく悩んでいた表現の方法もお教えたことができ、とても有意義な訓練でした。また他の隊員の活動内容や自分とは違うマダガスカル語の使い方を知れたこともすごく学びになりました。これから活動が本格化するこのタイミングで語学訓練を受講させていただき本当に感謝です。今回学んだマダガスカル語を今後の活動で精一杯活かしていきます。

女子ラグビーチームMAKIと栄養分科会・SHEP研修

3月17日・18日、マダガスカル女子ラグビー代表選手（MAKI）向けの料理教室が開催されました。スポーツ選手向けの料理レシピとして「豆乳スープ・大豆ハンバーグ・白インゲン豆のいろいろ」を作りました。今回スポーツと料理という初めての組み合わせで、栄養分科会としてできるこの幅がいかに広がりを実感することができたとても良い機会でした。

また3月20日から3日間、アンタナナリボ大学にてSHEP研修に参加しました。SHEPとは、「作る前に入念の調査と準備をし、その結果のもと売れるものを作る」という手法。野菜の値段の変動・売れる/売れない時期・原価・利益・マーケティングにおける問題・品質・種類等、調査を行い表に書き出していました。「買い取り側のニーズをしっかりと確認しておくことで、確実に売れるものを作ることができ、それが収入向上に繋がる。」調査がいかに大切かを改めて学びました。今後の生活改善活動のなかで農家さんと関わる際に、学びを活かしたいと思います。